

九月

まづ九月十日頃までの蕾のやうなものはすべて柳芽と見なしてよろしい。

蕾の選定 蕾は凡そ今月の十日頃から出始め、遅い種類でも二十日頃までには出揃ひますから、蕾が豆粒大位になつた時に完全なものを一個（なるべく眞蕾）残します。

その他の注意 蕾の發生時にはスリツプがよく蕾を侵しますから、消毒を勵行すると共に蕾の成長まで豫防として刻煙草を少しづつ芽先又は蕾にのせておくとよろしい。又この月は兎角暴風雨の襲來がありますから、その對策も必要です。

十月

本竹の立替へ 篠竹に黒ニス又はエナメルを塗り、開花までの伸びを見込んで長さを定めて假竹と取替へます。竹はなるべく幹の後ろに添へて正面より見へぬやうに立てることは觀賞上必要なことでせう。

害蟲驅除 今月に入つてからは水色の蚜蟲（白い糞をする）が下葉の裏に盛んにつきますから、驅除を勵行すること。又蕾の裏や上葉の裏にも小さな蚜蟲がつかますから花が綻ばぬ内に

薬剤で洗落して下さい。

蕾の注意 蕾が色づき始めてからは、雨天の時や夜間は軒下に入れること。特に霜除は完全にすべくして、又添竹に花瓣をすまして傷をつけぬやう注意して下さい。蕾が添竹にされる時分に餘分の竹の先を切捨てます。

輪臺の取付けと花壇入れ 今月の下旬から翌月の上旬にかけて五分咲き位の時に輪臺を取付けます。花が五、六分に咲いたなら花壇に入れます。

花容の矯正 自然のまま、開花させると、走りの花瓣が夢に壓へられたり、引つかかたりして素直に成育せぬことが屢々あります。故に破蕾後花が繰出す頃は邪魔をしてゐる強い夢をむしり取つて瓣伸びを樂にしてやります。又玉巻ものなどでは、その後でも玉に走管がひつかつてゐたり、玉巻と玉巻とが嘴合つてゐたりして、花瓣にへんな癖が出来て見苦しいですから管舞ものは常に注意して癖さばきをつけてやる必要があります。又厚物でも二瓣づつ重なつてゐたり、抱えてが倒れてゐたりしますからそれ等の點も氣をつけて少しづつ矯正してやりま

す。又長管ものなどでは少しの風にも瓣がすれて傷め易いですから注意を要します。

十一月

開花期の灌水 開花が間近に迫る頃は今までよりも想像以上に鉢土の乾きは烈しくなりますから灌水は注意を要します。一寸の油断で灌水が不足すると折角の花の伸びを阻止するやうなことになり、又厚物などではそのために花瓣を萎れさせてしまひます。

いよく開花 早いものは十月上旬頃から咲き始め、十一月に入ると盛りとなります。一年の苦心が漸く報いられたわけて菊作りにとつては一番楽しい、しかも得意な時でせう。心ゆくまで楽しんで下さい。それと同時に今までの培養、管理に間違いはなかつたかどうかを反省研究し、而して來年の飛躍を期して下さい。又他人の花壇を見學することも大切です。

十二月

大菊の作り方

花壇の取毀し 花が終れば花壇を取毀し、來年まで保存します。油障子なども保存の仕方です。翌年もまた使用出來ますから、十分注意して仕舞つて下さい。

冬期根分 冬至の頃に強健な苗を箱又はフレム又は露地に根分けします。根分けの方法は春の時と同様ですが、たゞ冬期は箱などに共挿しておくがよろしい。

培養土の堆積 木の葉、糞などを秋の頃から心懸けて堆積して米糠を混入し、翌年の培養土調製の材料とします。

完

昭和十四年七月廿五日 印刷
昭和十四年七月廿五日 發行

大菊の作り方……奥付

定價 三十錢

編者

農業世界編輯局

東京市日本橋區本町三丁目九番地
株式会社 博文館

發行者

大橋進一

東京市神田區小川町二丁目六番地

印刷者

瀬尾忠雄

長榮印刷所印刷

博文館文庫

—(40)—



株式會社 博文館

發行所

東京市日本橋區本町三丁目
振替貯金口座東京二四〇番
電話日本橋(24) 代一三〇一
三〇三番(6)

終

